

自見先生からのご寄稿いただきました

参議院議員 自見はなこ 活動報告

「国民医療の発展に向けて」



令和元年台風15号・19号に際して

平素より大変お世話になっております。今般、相次いだ自然災害によってお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。九月九日に関東地方に上陸し、千葉県を中心に大きな被害をもたらした台風15号では、停電をはじめ、建物やインフラの被害も甚大で、国民生活に多大な影響がありました。被災直後の急性期を過ぎた十月三日に、



被災した千葉県君津市の鈴木病院にて、鈴木研也理事長から説明を受ける(10月3日)



千葉県木更津市立久津間保育園で園長から当時の被災状況についてお話を伺う(10月3日)



千葉県木更津市の大寺浄水場にて台風15号による被害状況を視察(10月3日)



厚生労働省災害対策本部会議にて台風19号への対応を協議(10月13日)

難所における衛生面などの環境整備のため、保健師や民生委員、行政関係者の皆さまとの緊密な連携のもとで献身的に取り組んで下さ

十月八日に厚生労働省災害情報連絡室を設置し、十月十三日には加藤勝信厚生労働大臣を本部長とする厚生労働省災害対策本部会議を開催し、被害状況等について確認を進めるとともに、被災自治体におけるニーズの把握、被害の拡大防止と被害に遭われた方々を支援するた

め、厚生労働省が一丸となっての取り組みを進めております。一例として、常備薬を持参せずに避難してきた方もいることから、厚生労働省では、処方箋がなくても調剤ができる旨の通知を東日本大震災・熊本地震の際に医薬局から出しています。この通知が今般の台風被害についても有効であることを確認し、各自治体に周知することといたしました。

災害時には、怪我をされた方のほか、障害のある方、人工呼吸器を使用している方、介護を必要とする方など、弱い立場にある方々に最大限の配慮が求められることから、医師の果たす役割が大変重要で

日本医師連盟の先生方におかれましては、JMAT、DMAT、P MATとして被災された皆さまの命と健康を守る活動や、避

総理大臣官邸にて初動体制を見直す検証会議が開かれ、この夕イミングで私も厚生労働大臣政務官として千葉県木更津市の大寺浄水場、市立久津間保育園、君津市の鈴木病院にて現地視察を行い、被害状況とその際の初期対応を確認するとともに、被災された皆さまのお声を聞かせていただきました。

次いで発生した台風19号では、河川の氾濫、浸水被害をはじめ、広域的に甚大な被害がありました。



9月13日総理大臣官邸にて、大臣政務官就任の記念撮影(左) 厚生労働大臣室にて。加藤大臣、橋本岳・稲津久両副大臣、小島敏文政務官とともに、頑張ります!(右)



先般発足いたしました第四次安倍第二次改造内閣において、加藤厚生労働大臣のもと、大臣政務官(労働・子育て支援・年金担当)を拝命したことをご報告

告申し上げます。九月十三日朝の閣議で決定し、同日、総理大臣官邸にて辞令交付を受けました。成育基本法の年内施行を控えたこの時期に子育て支援を担当させていただくこととなり、大きな使命感を抱くとともに、働き方改革、年金改革など重要なテーマが山積する分野に挑むにあたり、身の引き締まる思いです。わが国が世界に誇る国民皆保険をはじめとする安心の社会保障制度を次世代に伝えていくため、政府の一員としての立場からも、誠心誠意全力で取り組んで参ります。引き続き、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

「自見はなこさんを励ます会」のお礼

九月十七日、東京プリンスホテルにて、横倉義武日本医師会会長(自見はなこ後援会会長)に発起人になっていただき、「自見はなこさんを励ます会」を開催していただきました。当日は多数の皆さまにご来場いただきましたこと、心より御礼申し上げます。厚生労働大臣政務官就任直後に、このような激励の機会を賜り、身に余る光栄と深く感謝するとともに、皆さまからいただいたお言葉を心に刻み、大役をしっかりと果たす決意を新たにいたしました。本当に有り難うございました。

厚生労働大臣政務官就任のご報告

て取り組んできた液体ミルクが、実際に災害の現場で役に立ったと聞き、本当によかったと感じました。昨年十一月には、災害時の乳幼児支援を目的とする日本栄養士会災害支援チーム(JDADAT)「赤ちゃん防災プロジェクト」も発足し、液体ミルクも含む防災備蓄や災害時の避難所環境整備などに尽力をいただいています。引き続き、こうした取り組みと連携し、防災減災をしっかりと進めて参ります。

アジア太平洋国会議員フォーラム(APPPGH)に、武見敬三先生と田村憲久先生とともに、WHO 議運事務局長として参加して参りました。開会式にはフィジーのコンロテ大統領もご臨席され、日本から厚生労働省医系技官出身の葛西健WHO西太平洋地域事務局(WPRO)事務局長が昨年就任していることから、開催に当たってはWHOにも多大なご尽力をいただきました。

た。保健制度の確立と結核やマラリアなどの感染症対策も急務ですが、加えて食生活の欧米化により非感染性疾患(NCDs)罹患率が成人の三割から五割以上と深刻でした。議長は武見先生が務め、田村先生は、日本の高齢化社会における介護と医療の取り組みと、DMAT・JMAT・P MATなどの災害医療の仕組み、私はNCDsに関連し

いまして、心から御礼申し上げます。そのようななか、「乳児用液体ミルクの普及を考える会」(会長・野田聖子衆議院議員、事務局長・自見はなこ)として解禁に尽力し、本年三月に発売となった乳児用液体ミルクが支援物資として大変役に立ったとの情報がありました。平成二十八年の熊本地震の際、フィンランドから緊急輸入されたことをきっかけに国内解禁の議論を始め、私のライフワークのひとつとして

アジア太平洋国会議員フォーラム(APPPGH)に、武見敬三先生と田村憲久先生とともに、WHO 議運事務局長として参加して参りました。開会式にはフィジーのコンロテ大統領もご臨席され、日本から厚生労働省医系技官出身の葛西健WHO西太平洋地域事務局(WPRO)事務局長が昨年就任していることから、開催に当たってはWHOにも多大なご尽力をいただきました。



田村先生、武見先生と、フィジー国会のエベリ・ナイラティカウ議長(左から3人目)、葛西WHO西太平洋地域事務局事務局長(右から2人目)とともに

フィジー出張のご報告

八月二十二日から二十五日にわたりフィジーで開催された「グローバルヘルスに関する

今回のテーマは、地球規模の温暖化による海面の上昇や、サイクロンや台風などの自然災害に対する保健分野の課題でした。フィジーは、海抜の低い島国では、防波堤建築や安全な住宅の確保など生命に直結する課題もあり、将来の移民を引き受ける協定も島国同士で結ばれていま